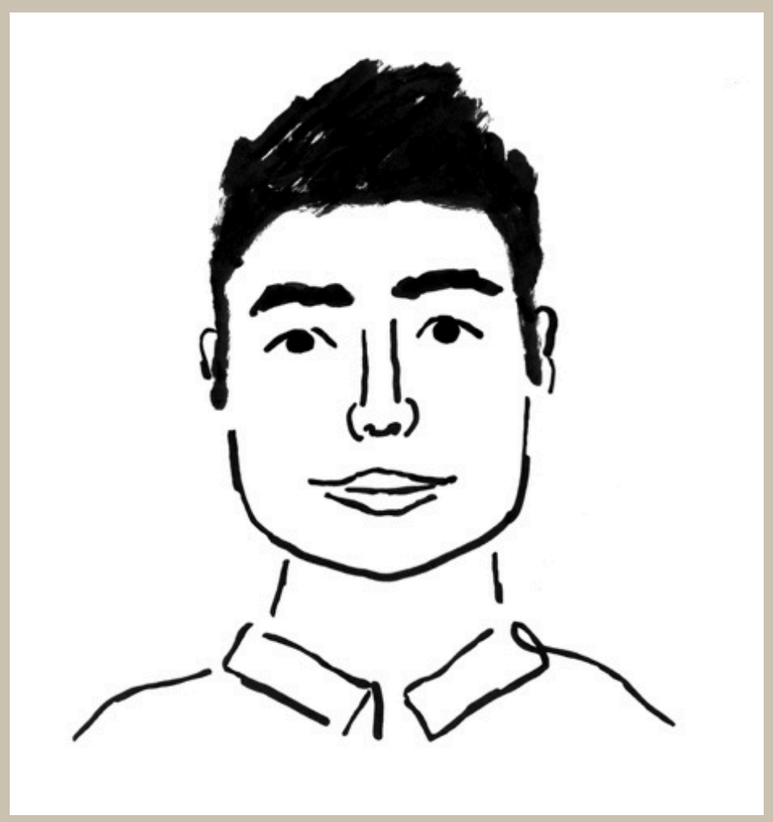
関西大学外国語学部 学術講演会

In Conversation with Hiromitsu Koiso

アン・カーソンを訳す
――翻訳者の仕事と創造性



©Izumi Shiokawa

小磯洋光氏（翻訳家・詩人）

Abstract

優れた文学作品は、翻訳されることで国境を越え、世界中の読者に届けられます。翻訳者は、単に言葉を別の言語に置き換えるだけの存在ではありません。原作を深く読み込み、その魅力を誰よりも理解する読者であると同時に、作品を新たな読者へと届ける案内人でもあります。しかし、文学を支える重要な役割を担いながら、翻訳者自身が表舞台に立つ機会は決して多くありません。
本セッションでは、2026年ノーベル文学賞受賞作家アン・カーソン氏の作品を日本語に翻訳してきた翻訳家で詩人の小磯洋光氏をお迎えし、文芸翻訳者を志したきっかけや、出版翻訳という仕事の実際についてお話を伺います。また、カーソン氏の作品との出会いから、日本での翻訳出版に至るまでのエピソードや苦労、そして原作の言葉と向き合いながら作品を日本語で表現していく創造的なプロセスにも迫ります。

Bio

小磯洋光（こいそ・ひろみつ）
　1979年、東京生まれ。翻訳家・詩人。イースト・アングリア大学大学院で文芸翻訳と創作を学ぶ。訳書にアン・カーソン『かみあわないノーマ』（thoasa）と『赤の自伝』（書肆侃侃房）、テジュ・コール『オープン・シティ』（新潮クレストブックス）、グレイソン・ペリー『男らしさの終焉』（フィルムアート社）があるほか、オーシャン・ヴオンなどの英語圏の詩を翻訳。『現代詩手帖』やPOETRYなどの国内外の文芸誌に日本語と英語で詩を発表。ポエトリーコレクティブ「ニジュウサンジュウ」に参加。

2026年12月7日(月) 3限 13:00~14:30

関西大学千里山キャンパス 岩崎記念館4階 F402教室

対　象：　All Welcome!

申込み：　事前申込み不要。直接会場にお越しください。

※オンライン参加者のみ事前申込み要
（https://forms.cloud.microsoft/r/96znw40iJj）

主催：関西大学外国語学部